

わらい 金子みすゞ

それはきれいな薔薇いろで、
芥子づぶよりかちいたくて、
こぼれて土に落ちたとき、
ぱつと花火がはじけるように、
おおきな花がひらくのよ。
もしも泪がこぼれるように…、
こんな笑いがこぼれたら、
どんなに、どんなに、
きれいでしょう。

もしも泪がこぼれるように…と書かれていることからみると、みすゞさん自身、また、周りの人たちは泪をこぼすことが多かったのでしょうか。

26歳でこの世を去ったみすゞさんは、さまざまなことがあります、最期には自ら命を絶ってしまいます。幸福な時期もあったと思いますが、生涯を通じては、決して幸福だったとは言えなかつたのではないかでしょうか。

つらい出来事がたくさんあって、もっと笑顔でいたら…と祈る気持ちもあったのだと思います。詩の最後に、泪の代わりに笑顔が咲けば、どんなにどんなにきれいでしょう…と、どんなにどんなにと繰り返していることによってとても強調されています。

笑いは最高の薬、そして、よく笑う人は長生きをすると言われます。

また、笑う門には福来る…というような「笑い」「笑顔」の格言はいろいろあります。

笑顔は自分の気持ちを明るくするだけではなく、周りの人にも影響を与えます。

人と接するとき、無表情ではなく、やわらかい表情で接することのできる人でありたいと思います。

その笑顔が広がって行きますように。

そしてまた、わたしたちは子どもたちの笑顔を守りぬいていかなければなりません。

2026年、子どもたちの幸せを祈りつつ、新たな気持ちを持って歩んでいきたいと思います。

2026年1月1日の読売新聞 編集手帳より

「笑顔」にはほんの一瞬すれ違った人さえ幸せにする力がある。

《何億という人間が生きているが、顔はそれよりもたくさんある》 リルケ



さて、わたしたちはこの1年どう過ごしましょうか…